

(別記)

富良野市農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

農家の高齢化が進んでおり、農家戸数の減少により1戸当りの経営面積の増加から、土地利用型作物が増加している。特に麦類については作付比率が高く輪作体系が組めないことから連作障害等による単収低下が顕著となっている。また、経営面積増加により施設園芸作物への労働力が不足している。

規模拡大に伴い農作業機の大型化により、下層土が緊密化し圃場の排水性が悪化している。

家畜糞尿、稲わら、麦稈が有効利用されておらず、土作りが不十分である。

2 作物ごとの取組方針

(1) 主食用米

生産目標に沿った作付面積を確保する。

(2) 非主食用米

ア 加工用米

複数年契約の推進により長期的な高価格帯需要から味噌等の低価格帯需要まで含め幅広い需要を確保することで、生産目標を遵守し、水田面積を確保する。

イ 備蓄米

備蓄用米の作付により生産目標を遵守し、水田面積を確保する。

(3) 麦、大豆

担い手への面積集積、作業受委託組織の育成、共同作業化により設備投資と労力の軽減を図る。

・麦類はまた、適正な輪作体系維持のために作付面積の改善を図る。

・大豆は土層改良により排水性を改善し、適正な輪作体系維持のために作付比率の向上を図る。実需者からのニーズがあり、機械を増やすことにより、生産工場・所得増加を図る。

(4) てん菜・でん粉用馬鈴薯

てん菜、馬鈴薯などの根菜類は、土層改良により排水性を改善し、適正な輪作体系維持のために作付け比率の向上を図る。

(5) 飼料作物

デントコーンを取り入れた輪作体系の確立を図る、重要な作物として担い手の作付拡大を図る。

(6) そば

省力的な土地利用型作物として、農家戸数の減少による不作付地の解消など、農地の保全を図る。

(7) 野菜

野菜類を含めた輪作体系を構築し、消費者ニーズと調和した多種多様な作物の生産体制を維持する。

・メロン、西瓜、ミニトマト

実需者からのニーズがあり、産地の特色を活かした生産、ブランド化を図ることが出来る作物として作付面積の維持、拡大を図る。

・スイートコーン

野菜を含めた輪作体系に重要な作物として位置づけ作付面積の拡大を図る。

(8) 耕畜連携

作付をしていない土地や水田を活用し、飼料作物の安定的な供給体制を築く。

(9) 不作付地の解消

省力的な土地利用型作物の導入や、作業受委託組織の育成、高性能業機の共同利用等による不作付地の解消を図る。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 28 年度の作付面積 (ha)	平成 29 年度の作付予定面積 (ha)	平成 30 年度の目標作付面積 (ha)
主食用米	680.0	659.0	659.0
飼料用米			
米粉用米			
WCS 用稲			
加工用米	0.51		
備蓄米			
麦	706.5	706.5	706.5
大豆	56.6	57.0	57.0
てん菜	73.6	74.0	74.0
飼料作物	514.3	524.3	524.3
そば	13.5	13.5	13.5
なたね			
その他地域振興作物	1197.6	1199.5	1199.5
野菜			
・メロン	67.3	68.0	68.0
・西瓜	59.6	60.0	60.0
・ミニトマト	9.5	10.0	10.0
・スイートコーン	75.7	76.0	83.2
・その他野菜	985.5	985.5	985.5

4 平成 29 年度に向けた取組及び目標

取組 番号	対象作物	取組	分類 ※	指標	平成 28 年度 (現状値)	平成 29 年度 (目標値)
1	メロン 西瓜 ミニトマト スイートコーン	作付の維持・拡大	ア	実施面積	67.3ha 59.6ha 9.5ha 75.7ha	68.0ha 60.0ha 10.0ha 78.0ha
2	メロン 西瓜 ミニトマト スイートコーン	担い手の作付拡大	イ	実施面積	67.3ha 59.6h 9.5ha 75.7ha	68.0ha 60.0ha 10.0ha 76.0ha
3	飼料作物	担い手による作付 拡大	イ	実施面積	290.5ha	300.3ha
4	大豆	作付拡大	ア	実施面積	56.6a	57.0ha
5	大豆	担い手の作付拡大	イ	実施面積	56.6ha	57.0ha
6	甜菜	作付拡大	ア	実施面積	73.6ha	74.0ha
7	甜菜	担い手の作付拡大	イ	実施面積	73.6ha	74.0ha
8	飼料作物	耕畜連携	イ	実施面積	223.8ha	224.0ha

※「分類」欄については、実施要綱別紙 15 の 2 (5) のア、イ、ウのいずれに該当するか記入してください。(複数該当する場合には、ア、イ、ウのうち主たる取組に該当するものをいずれか 1 つ記入してください。)

- ア 農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組
- イ 生産性向上等、低コスト化に取り組む作物生産の取組
- ウ 地域特産品など、ニーズの高い製品の産地化を図るための取組を行いながら付加価値の高い作物を生産する取組

※平成 30 年度以降の目標値を設定している場合は、「平成 29 年度 (目標値)」欄の右に欄を設け、目標年度及び目標値を記載してください。

※現状値及び目標値が単収、数量など面積以外の場合、() 内に数値を設定する根拠となった面積を記載してください。